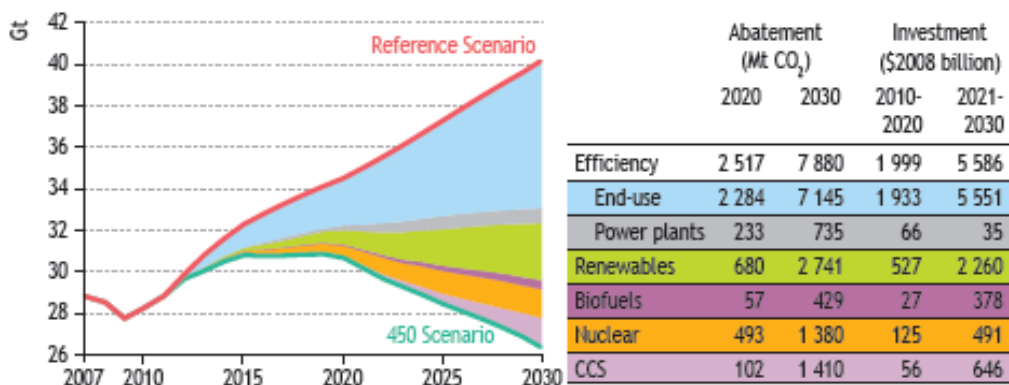


IEA（国際エネルギー機関）の分析について

平成 21 年 11 月 18 日

財団法人 日本エネルギー経済研究所

IEA（国際エネルギー機関）は毎年 1 回、世界の最新のエネルギー情勢等を踏まえた上で詳細なモデル分析を行い、長期のエネルギー需給見通しを作成している。その最新版である”World Energy Outlook 2009”は今年 11 月 10 日に発表された。ここでは、2030 年までの長期の将来について、「各国政府が既存の政策や対策を全く変えなかった場合」のリファレンス・シナリオと、「大気中の温室効果ガス濃度を CO₂ 換算で約 450ppm の水準で安定化させる」ことを想定した 450 シナリオとが対比的に示されている。



(出所) World Energy Outlook 2009

図 1 リファレンス・シナリオ及び 450 シナリオの CO₂ 排出量見通し

450 シナリオは各国の掲げる目標を更に上回る大幅な CO₂ 削減対策の導入を想定する、極めて野心的な温室効果ガス削減シナリオである。ここでは、2020 年の世界のエネルギー起源 CO₂ 排出量はリファレンス・シナリオの 34.5Gt から 3.8Gt 少ない 30.7Gt まで削減されることが想定されている。これを実現するためには、先進国のみではなく、発展途上国も相応の削減対策を行うことが求められ、そのための適切な国際的枠組が不可欠である、とされる。また、様々な削減対策の中で省エネルギーが最も大きな貢献を示しているとともに、再生可能エネルギーや CCS 等については 2020 年以降に大量に導入が行われるようになり、CO₂ 削減に大きく貢献する、とされている。

表1 各国が公表した削減目標案と450シナリオとの比較

	各国が公表している 2020年までの 削減目標案	1990年比		2005年比		450シナリオ における 削減量(百万t) (対レファレンス シナリオ)
		各国が公表 している目 標案	IEAが 450シナリ オの場合に 各国に求め る真水削減 量	各国が公表 している目 標案	IEAが 450シナリ オの場合に 各国に求め る真水削減 量	
米国	05年比 - 17%	- 1%	- 3%	- 17%	- 18%	749
EU	90年比 - 20%/ - 30%	- 20%	- 23%	- 18%	- 21%	444
日本	90年比 - 25%	- 25%	- 10%	- 34%	- 21%	84
ロシア	90年比 - 10% ~ - 15%	- 10%	- 27%	+ 29%	+ 5%	134
中国	-		+ 275%		+ 65%	1,178
インド	-		+ 224%		+ 66%	249
OECD+	-		- 4%		- 17%	1,656
Non-OECD+	-		+ 107%		+ 41%	2,194
世界	-		+ 46%		+ 13%	3,850

(出所) World Energy Outlook 2009 Presentation to the Press London, 10 November 2009 を基に作成

IEAは450シナリオにおいて、各方面からの情報収集に基づき世界各国のエネルギー需給や削減対策の導入状況を考慮した上で、エネルギー需給やコストの分析を行い、それぞれの国や地域について真水分のCO₂削減量を試算している。ここでは、より高コストの対策が導入されることにより、OECD+諸国(OECD諸国及びその他のEU加盟国)での二酸化炭素価格は50ドル/トンに達するとされている。米国の削減量は1990年比3%、EUの削減量は同23%、ロシアの削減量は同27%とされており、いずれも各国の表明した削減目標を上回っている。日本の真水での削減量は同10%である。

IEAは「各国にかかる削減費用と、実際の各国の費用負担とは一致しない」と述べており、後者はIEAの検討の対象外(政治的問題)である、としている。どのような費用負担(クレジット等を含んだ削減量)を想定したところで、実際の真水分の削減量は費用均等化に落ち着く。IEAによれば、これが日本では1990年比10%の削減量である、ということになる。

以上